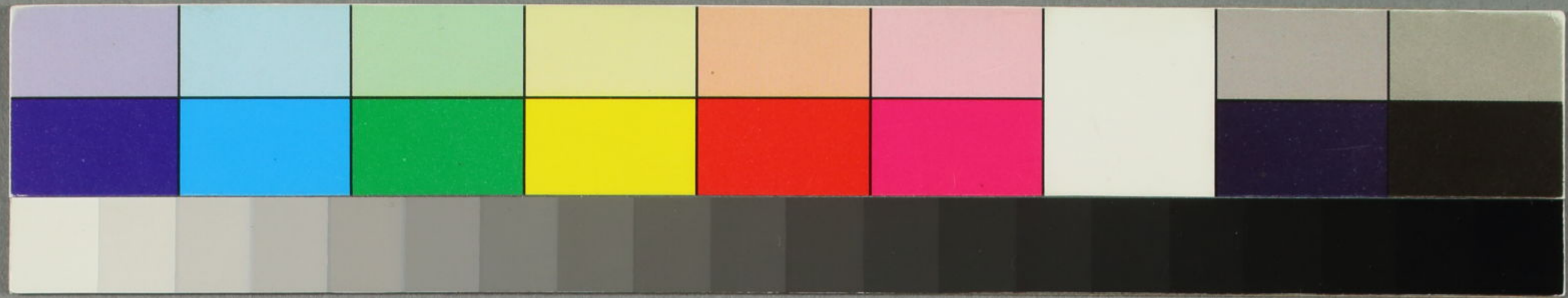


役者評判記

千13  
3851  
10





天正  
3851  
10

多  
16/1  
18



ヤチ子子子

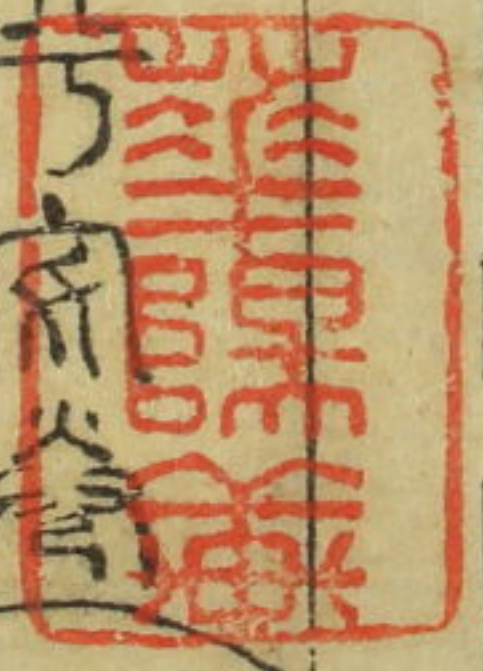
10

9

ノ



青龍觀音寺



後商大印

八肉金台禁商印

京大

京田條者例置長敷役者月祿  
糸代部万老夫 在在 龜谷系之

▲立役之部

○凡立川東方敷の多し寄

上上吉 嵐三又席

一和作地蔵もぬいぬい、とん

上上吉 中山文七

とん、うぐと信とありと 振松

上上吉 中山栄助

大急のお復いさても評判ハ 栄作

上上吉 中山金柳

う川なくいぶかしててもよハ 三尾

上上 三保屋吉兵衛

年切とひてゆ様も時ううと やと

上上 片岡松助

うはぬ様解いさこのの あり

上 市川門流

ま内のお勤もよびお殿と 萬

上 嵐金女

押ささばよまひのまの 政江

上 嵐松次席

君之役 嵐三吉

藤の仕廻り扱とてふ 七吉

▲敵役之部

上上吉 浪屋圓次席

月細くさるももしくさぬ 忠み

上上 大石門流

市紅の身がりの文と出しく 忠今

上上 初山紋治

急考の分かれとくまご者ぬ 政江

上 嵐源次席

浪切まいつてともおとさく 忠今

上 嵐来流

上 谷村流

上 中山長次席

上 大石松流

上 以取之部

浪屋忠吉

双取後を年くつこまきこ 三ノ上 小八

上

中山平三帝

井の上

ちりて後ひらきまは金家のくま

上上吉

中山平三帝

三ノ上

上上吉

三原三帝

水ノ上

おぼのむき声くちとちとて 藤原

上上

三原三帝

万ノ上

上上

三原三帝

井の上

のんどうとちとて南がわい 龜

上上

三原三帝

井の上

河切者みれとて北がわい 岩

上上

片岡松江

井の上

は君さそりくら松島もの 藤原

上上

淡尾三帝

上上

淡尾三帝

井の上

えんといへいけぬづの 志

上上

淡尾三帝

井の上

だんくといひいともき者 重松

上上

淡尾三帝

井の上

中村三帝 小籠 一 淡尾三帝 中籠

上上吉

中山三帝

井の上

ちよひやれ姿のえんくらに程 長

上上

淡尾三帝

井の上

▲子役之部

上上

淡尾三帝

井の上

とまの仕立はとれ家 小

上上

片岡三帝

井の上

▲色子之部

上上

淡尾三帝

井の上

中村三帝 一 淡尾三帝 一 片岡三帝 一 淡尾三帝

淡尾清次郎  
 嵐定之助  
 中山定之助  
 片岡左吉  
 片岡万吉  
 淡尾清三郎  
 嵐重吉  
 嵐文之助  
 中山文吉  
 片岡左之助  
 淡尾清三郎

大正書

▲ 惣書 抽

片岡仁左衛門

二六〇

又役の大高の山登りの力

▲ 漸子の方之歌

一 櫻 於本万定 一 笠 松田万吉  
 一 長 於本清平 一 鼓 安平清八  
 一 口 於本信吉 一 鼓 新田信吉  
 一 三 於本清次 一 在 小田合吉  
 一 口 於本忠次 一 撃 中山吉枝  
 一 美 竹本隆夫 一 三 於本信吉  
 一 口 於本又美 一 口 於本清次  
 一 以上 無本九市

▲ 雑言作者之部

並本三郎  
 並本清造  
 並本要助  
 赤河福助  
 赤河真助

千代 美の里 二 本

○ 一丁とあるは...  
 役者花鳥之編 全一冊

此書は三ヶ月前に...  
 花鳥乃忘哉...  
 新編向と...  
 一冊の...  
 以上...

### ○役者

歳立たる事候申上げ候可申事申  
 かく二日の曉より諸事候初れ  
 後ひいらもまゝありて其後初の  
 掃帚は初掃帚も日新に輝とて  
 うらぐの音とていざよく其又活れ  
 申れ之程と先東山へて出掛け申  
 あり候とて候人んんもまゝとれ  
先東山へて出掛け候事

### ○役者大學子

岡演

岡演の儀は世間の儀方少もを  
 多しとて其儀は世間の儀方少もを  
 多しとて其儀は世間の儀方少もを  
 多しとて其儀は世間の儀方少もを  
 一々候はる物もなれ候ありけり  
 大なる得候ありて大せ候もくと  
 おく候とて一々の程もなれ候あり

かくおれ候も其儀の用い候事  
 候取上下申てその儀より其儀の  
 事ありて東西へ

### ▲立役と郡

### 上上吉

桐

嵐二と市

南例

欲治其國者先齊其家  
 欲齊其家者先倍其身  
欲治其國者先齊其家  
 欲齊其家者先倍其身  
 欲治其國者先齊其家  
 欲齊其家者先倍其身  
 欲治其國者先齊其家  
 欲齊其家者先倍其身  
 欲治其國者先齊其家  
 欲齊其家者先倍其身





上とせしむるの力なり。  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七

初らば受て承りしを  
 あり多しとて燃ひ  
 高田のよきこと  
 上上士  
 中山文七  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七  
 [包] 其本亂而未治者否矣  
 上上士  
 中山文七





西へ行く酒をさげしあふりて遊むまじや  
園園をまき度候事候は人鬼の鬼とあふりて  
ての如く入る候事候は人鬼の鬼とあふりて  
許は保稗候後備承の足である(七)園馬路を  
心持対あわれ出動ある候事候は人鬼の鬼とあふりて  
待す候く

上上

三保本末の事

園相古共の如く候事候は人鬼の鬼とあふりて  
七の如く入る候事候は人鬼の鬼とあふりて  
人鬼の鬼とあふりて候事候は人鬼の鬼とあふりて  
まの如く入る候事候は人鬼の鬼とあふりて  
あり候事候は人鬼の鬼とあふりて

上上

片岡を助

園我をよむ候事候は人鬼の鬼とあふりて  
あり候事候は人鬼の鬼とあふりて

皆の如く候事候は人鬼の鬼とあふりて  
七の如く入る候事候は人鬼の鬼とあふりて  
ひまがらんとつゆせう

上

回 市川門の事

園江左りの如く候事候は人鬼の鬼とあふりて  
御記候事候は人鬼の鬼とあふりて  
出動かく押さる候事候は人鬼の鬼とあふりて  
あふり候事候は人鬼の鬼とあふりて

上

中山金也

園あふりて候事候は人鬼の鬼とあふりて  
余と上下付し候事候は人鬼の鬼とあふりて  
先の如く候事候は人鬼の鬼とあふりて  
早斗候事候は人鬼の鬼とあふりて  
仕向候事候は人鬼の鬼とあふりて  
ひまがらんとつゆせう



徳兵衛房分千綱  
辰十一月三日

十一  
あつた



少三郎

大目

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは



平嵐三太郎

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

大切檀浦琴責の段

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

おは

とるは後

桐 嵐 三 才

國本を以ては自れを以て奉る事ありて  
是れを以て是れを以て奉る事ありて  
是れを以て是れを以て奉る事ありて

上上世回 一 欽 設 之 郊

上上世回 (一) 淺尾重厚

國一人貪其國作亂 欽設の處を  
是れを以て是れを以て奉る事ありて  
是れを以て是れを以て奉る事ありて

是れを以て是れを以て奉る事ありて  
是れを以て是れを以て奉る事ありて  
是れを以て是れを以て奉る事ありて



後にはろくも後にはあはれおのまひてやせり


▲花車歌之部

上  中山平之部

因はるるいかに歌やうはれおのまひてやせり  
かたてのの聲あがれけり

▲若女歌之部

上上言  中山よりと

因挑之天天其葉素素素  
さうさやめりかたてのの聲あがれけり  
 成程大娘のいもやうはれおのまひてやせり  
はじりし御歌もあはれけり  
のりあはれおのまひてやせり  
小まな女あはれおのまひてやせり  
ここのはれおのまひてやせり  
おのまひてやせり

てのりし御歌もあはれけり

はれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり

あはれおのまひてやせり







大者にみちのちの段を押し上り河を渡る事難しき所  
大玉を流しつゝ大石を積りてゆくべしとせしむる也

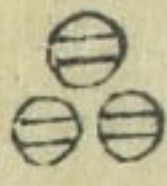
上上



最川とあり

河は河のゆゑとありてくさくさ言はれたるを和名と  
ありてくさくさは言はれし河のゆゑとありてくさくさは  
小川とくさくさは言はれし河のゆゑとありてくさくさは  
と持ててくさくさは

上



片岡松江

上



浅尾志比呂

河はまゝに流るる中より河を渡る事難しき所  
小者流るる中より河を渡る事難しき所  
手は元流るる中より河を渡る事難しき所  
ありてくさくさは

上



山下七尾

上



嵐極楽

河はまゝに流るる中より河を渡る事難しき所  
小者流るる中より河を渡る事難しき所  
手は元流るる中より河を渡る事難しき所  
ありてくさくさは

上上吉



中山富三郎

河はまゝに流るる中より河を渡る事難しき所  
小者流るる中より河を渡る事難しき所  
手は元流るる中より河を渡る事難しき所  
ありてくさくさは

河はまゝに流るる中より河を渡る事難しき所  
小者流るる中より河を渡る事難しき所  
手は元流るる中より河を渡る事難しき所  
ありてくさくさは



此の如き事は重の所違て方々まこと  
とありて行はざるをては後と云ふ所あり  
後後と云ふ名をばそふは後後と云ふ  
事なり

▲物書牘

太上上吉 〇 片岡仁左衛門

圖十目所視十年所指其八嚴平

國頭取の事 西正比るるも浮動の事

とありて後事とてありてその事あり

多ふは後事とてありて國後とてあり

く 國を指す事ありて後事とてあり

ともありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり

とありて別く大抵後事とてあり





〇一子ハ口振カヤトモシロ

續別巻頭山

金田比羅御利生記 全長身其細辨 全五册

此書ハ比羅御利生ノ事ヲ其因縁ヲシテ記シテあり  
今更ニ其因縁ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
西國ニ其因縁ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
ハ比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
又ハ比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ

繪本新白粉  
繪本新紅粉

希世全一五册

後ハ全一五册

大ニ此書ハ比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ  
比羅御利生ノ事ヲ記シテ其因縁ノ事ヲ記シテ

八文字及八文字門板元



後者大學

京下  
後



後者大學

藝品定

京撰之卷

芝居好曰。大學。評  
家之秘書。而諸客  
入觀之門也。於今  
可見。好人為評。次  
蒐者。獨賴此篇之  
存。而春益次之好  
者。必由是而論焉。  
則庶乎評不差矣。

大坂式三番出役者目録  
大坂式三番出役者目録  
大坂式三番出役者目録  
大坂式三番出役者目録

▲五段之部

割 ○凡之科は左の如き  
嵐表三番 嵐表  
市川市彦 市川

上書 市川八百松 市川  
市川の西勢かんとて  
市川八百松 市川

上書 嵐猪三番 嵐猪  
嵐猪のうい方の中車  
嵐猪三番 嵐猪

上書 三林六本席 三林  
三林のうい方の中車  
三林六本席 三林

上士 中山小三席 中山  
中山のうい方の中車  
中山小三席 中山

上上 次方より登り上り  
同 三平席 同

上上 男ぶりのうい方の中車  
同 三平席 同

上上 中山新七 中山  
中山のうい方の中車  
中山新七 中山

上 中山新平 中山  
中山のうい方の中車  
中山新平 中山

上 嵐万次席 嵐  
嵐のうい方の中車  
嵐万次席 嵐

上 大谷友次席 大谷  
大谷のうい方の中車  
大谷友次席 大谷

上 市川源三席 市川  
市川のうい方の中車  
市川源三席 市川

上 嵐源三席 嵐  
嵐のうい方の中車  
嵐源三席 嵐

上書 中山新出席 中山  
中山のうい方の中車  
中山新出席 中山

上書 大谷友次席 大谷  
大谷のうい方の中車  
大谷友次席 大谷

上書 嵐の仕廻り  
嵐の仕廻り  
嵐の仕廻り  
嵐の仕廻り

上吉

中山文五席

中山座

上吉

法尾奥山

尾座

上上

相山紋次

中山座

上上

嵐園八

尾座

上上

柴崎若菜

尾座

上上

表付乃加りつる

尾座

上

岩井次席

尾座

上

坂東園六

尾座

上

市川鱈丸

尾座

正

今村七席

尾座

正

中山名席

尾座

正

三井十席

尾座

正

法尾園子席

尾座

正

坂東丸法

尾座

正

中山文席

尾座

正

市川勘次

尾座

上上

嵐冠十席

尾座

上上

相野谷控十席

尾座

上上

お巻のらり

尾座

上上

法村園

尾座

上上

かむり

尾座

上上

道不

尾座

上上

法村

尾座

上

坂東

尾座

上

おん

尾座

上善 ▲長女殿之部  
叶 張子 尻彦

上善 長川猪笹 中山彦

上善 三系浪江 尻彦

上上 押立之ひくく 尻彦

上上 中村之六 玉川

上上 中村之源之 中山彦

上上 山下之屋之 尻彦

上上 風之巻之部 尻彦

上上 長川政之 中山彦

上上 葉子之代 尻彦

上上 叶 久衣 尻彦

上上 三株之部 中山彦

上上 風之部 尻彦

上上 中村之部 尻彦

上上 中村之部 尻彦

上上 ▲子之部 尻彦

上上 風之部 尻彦

上善 ▲長女殿之部  
叶 張子 尻彦

上善 長川猪笹 中山彦

上善 三系浪江 尻彦

上上 押立之ひくく 尻彦

上上 中村之六 玉川

上上 中村之源之 中山彦

上上 山下之屋之 尻彦

上上 風之巻之部 尻彦

上上 長川政之 中山彦

上上 葉子之代 尻彦

上上 叶 久衣 尻彦

上上 三株之部 中山彦

上上 風之部 尻彦

上上 中村之部 尻彦

上上 中村之部 尻彦

上上 ▲子之部 尻彦

上上 風之部 尻彦

上 嵐枝之柳 口之屋

扱く多品くーい 極品也

▲最上級之部

中山他各所 尾庄

名共いりてふくけぬ 大珍

嵐川 尾庄 中之庄

折續さふ動あふ出廿二 今又

▲嵐産色子之分

一 嵐川光帝 一 山下地帝

一 片曇古帝 一 中山光帝

一 市川中光 一 市川鑑帝

一 相持谷龜帝 一 相持石平帝

一 大谷右帝 一 市川法彦

一 法尾奥比帝 一 法尾奥比帝

一 法尾奥比帝 一 法尾嘉帝

一 法尾丹平 一 嵐東帝

一 嵐助風帝 一 嵐辰帝

▲中山産色子之分

一 中山福帝 一 山村志帝

一 嵐志帝 一 法尾園帝

一 坂東己之柳 一 大谷音帝

一 中山文帝 一 中村辰帝

一 中山和帝 一 市川脚帝

一 片曇万帝 一 嵐三根松

一 嵐川吉松 一 市川他帝

一 嵐川小帝 一 中村之帝

▲熱産油

若女形 眞上吉 芳法あや光 嵐庄

ゆめ八出てもれり之帝 西風産

▲軌子方之部

○嵐産之分 口 井白之分

一 鐵崎 中村長次 一 長号 法本龍之

一 長号 中村八重次 一 口 矣時万帝

一 口 蘇野力帝 一 之後 於本帝

一 口 湯出八帝 一 口 中川八



文化五戊辰月九日 寺分ふりま元もと寺てら  
叙離性 依よ依よ中ちゆう本ほん宗そう宗そう師し  
仍なほ年ねん 四十六しじゅうろくにん女にょ

文化五戊辰主六月六日 寺てら八はち中ちゆう寺てら  
總そう文ぶん教きやう院いん觀くわん教きやう信しん士し  
仍なほ年ねん 十八じゅうはち女にょ

文化五戊辰五月二日 寺てら八はち中ちゆう寺てら  
加か馬ま光くわう寺てら雲うん堂だう  
仍なほ年ねん 四十二しじゅうに女にょ

文化四丁卯七月十七日 寺てら八はち中ちゆう寺てら  
徹てつ德とく俊しゆん藝ぎ信しん士し  
仍なほ年ねん 四十二しじゅうに女にょ

文化五戊辰十月九日 寺てら八はち中ちゆう寺てら  
叙しよ了りやう西せい 依よ依よ中ちゆう本ほん宗そう宗そう師し  
仍なほ年ねん 六十四ろくにん女にょ

神かみのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
ててのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
最さい聖せいのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
もものの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり

ととのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
残ざんりり今いまのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
市いちのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
又また強きやう引ひくく機きのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
一いち流りゆうのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
ああのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
他たのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
ととのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
初はつのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
ととのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
よよととのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり

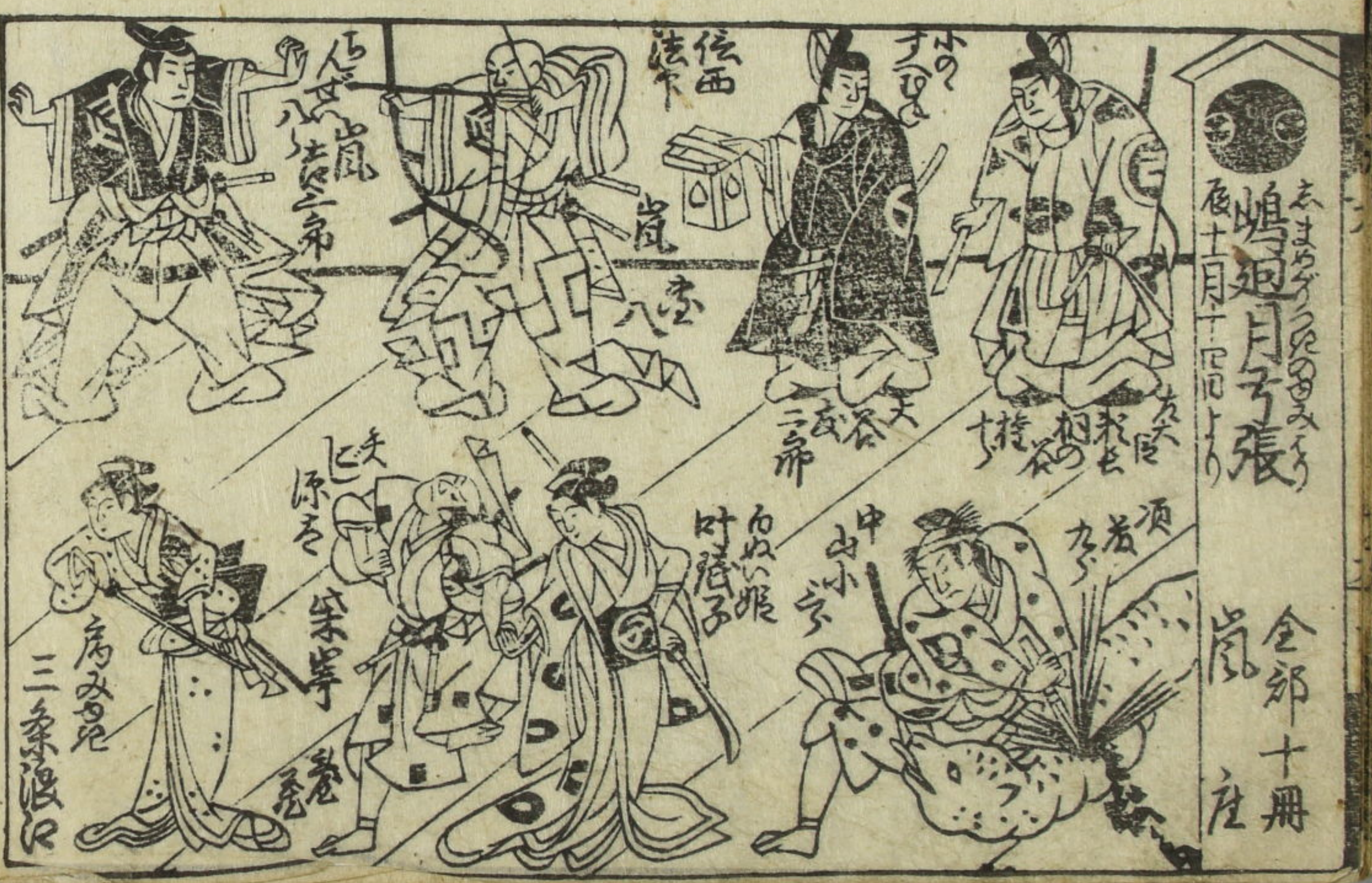
市川市いちがわのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
一いち世せい二に代だい 一いち乃の流りゆう 全ぜんのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
在あるる年ねん進しん封ふう未み出しゅつししのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり  
佛ぶつのの心こころをを安やすんだくくししのの物もののの心こころをを安やすんだり











本は...の...  
 鳴廻月子張  
 辰十月十四日

全部十冊  
 嵐

さうきぬ成方なるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と

あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と  
あひのきかゝるをそとそひの目かまはねる市紀と





禮之用和為貴、以敬為終。夫禮者、  
所以定親疏、明貴賤、序尊卑、  
別是非、**正人倫、**也。是故君子居則  
貴而尊、**動則敬、**儻或失之、**失  
尊卑、**則上下無所措手足、**失  
親疏、**則夫婦無所定、**失  
貴賤、**則君臣無所守、**失  
是非、**則小人無所懼、**失  
人倫、**則天下無所歸。是以君子  
居則貴而尊、動則敬、**儻或失  
之、失尊卑、則上下無所措手足、失  
親疏、則夫婦無所定、失貴賤、則君  
臣無所守、失是非、則小人無所懼、失  
人倫、則天下無所歸。是以君子**

上上士



二林大又師

居則貴而尊、動則敬、儻或失之、失尊卑、則上下無所措手足、失親疏、則夫婦無所定、失貴賤、則君臣無所守、失是非、則小人無所懼、失人倫、則天下無所歸。是以君子居則貴而尊、動則敬、儻或失之、失尊卑、則上下無所措手足、失親疏、則夫婦無所定、失貴賤、則君臣無所守、失是非、則小人無所懼、失人倫、則天下無所歸。是以君子

上上



中山小之師

居則貴而尊、動則敬、儻或失之、失尊卑、則上下無所措手足、失親疏、則夫婦無所定、失貴賤、則君臣無所守、失是非、則小人無所懼、失人倫、則天下無所歸。是以君子居則貴而尊、動則敬、儻或失之、失尊卑、則上下無所措手足、失親疏、則夫婦無所定、失貴賤、則君臣無所守、失是非、則小人無所懼、失人倫、則天下無所歸。是以君子






く丹に懸るはゆていなるまを七夜氏の爲に  
ひかるといふまを七夜の爲にひかるといふ  
あつてあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
二夜もあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に

上吉 ④ 中山新の市 元在

山に懸るはゆていなるまを七夜氏の爲に  
ひかるといふまを七夜の爲にひかるといふ  
あつてあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
二夜もあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に

山に懸るはゆていなるまを七夜氏の爲に  
ひかるといふまを七夜の爲にひかるといふ  
あつてあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
二夜もあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に  
まを七夜の爲にひかるといふまを七夜の爲に



  
 伊勢音いせのね こゝろのね 渡わた 双ふた  
塔の布 中なか 山やま 下した



已い 歲さい 始はじめ 堀ほり 江え 幸ゆき 福ふく  
 御ご 純じゆん



相あ 山やま 經けい 二に  
 中なか 山やま 百ひゃく 山やま  
 仁にん 山やま 中なか  
 市いち 川がわ 屋や  
 源げん 寺てら



のちのち後天をわたりていふこと

上上吉 ① 浅尾奥山 前庄

淺尾のふもとをたぐりて奥山を境とし流石の山

② 輝夜城のふもとを境とし奥山を境とし

かき③ 金巻を境とし④ 金巻を境とし

⑤ の推定を境とし⑥ の推定を境とし

⑦ の推定を境とし⑧ の推定を境とし

⑨ の推定を境とし⑩ の推定を境とし

⑪ の推定を境とし⑫ の推定を境とし

⑬ の推定を境とし⑭ の推定を境とし

⑮ の推定を境とし⑯ の推定を境とし

⑰ の推定を境とし⑱ の推定を境とし

⑲ の推定を境とし⑳ の推定を境とし

㉑ の推定を境とし㉒ の推定を境とし

㉓ の推定を境とし㉔ の推定を境とし

㉕ の推定を境とし㉖ の推定を境とし

㉗ の推定を境とし㉘ の推定を境とし

㉙ の推定を境とし㉚ の推定を境とし

㉛ の推定を境とし㉜ の推定を境とし

㉝ の推定を境とし㉞ の推定を境とし

㉟ の推定を境とし㊱ の推定を境とし

㊲ の推定を境とし㊳ の推定を境とし

㊴ の推定を境とし㊵ の推定を境とし

㊶ の推定を境とし㊷ の推定を境とし

㊸ の推定を境とし㊹ の推定を境とし

㊺ の推定を境とし㊻ の推定を境とし

㊼ の推定を境とし㊽ の推定を境とし

㊾ の推定を境とし㊿ の推定を境とし

① 浅尾奥山 前庄

② 輝夜城のふもとを境とし奥山を境とし

③ 金巻を境とし④ 金巻を境とし

⑤ の推定を境とし⑥ の推定を境とし

⑦ の推定を境とし⑧ の推定を境とし

⑨ の推定を境とし⑩ の推定を境とし

⑪ の推定を境とし⑫ の推定を境とし

⑬ の推定を境とし⑭ の推定を境とし

⑮ の推定を境とし⑯ の推定を境とし

⑰ の推定を境とし⑱ の推定を境とし

⑲ の推定を境とし⑳ の推定を境とし

㉑ の推定を境とし㉒ の推定を境とし

㉓ の推定を境とし㉔ の推定を境とし

㉕ の推定を境とし㉖ の推定を境とし

㉗ の推定を境とし㉘ の推定を境とし

㉙ の推定を境とし㉚ の推定を境とし

㉛ の推定を境とし㉜ の推定を境とし

㉝ の推定を境とし㉞ の推定を境とし

㉟ の推定を境とし㊱ の推定を境とし

㊲ の推定を境とし㊳ の推定を境とし

㊴ の推定を境とし㊵ の推定を境とし

㊶ の推定を境とし㊷ の推定を境とし

㊸ の推定を境とし㊹ の推定を境とし

㊺ の推定を境とし㊻ の推定を境とし

㊼ の推定を境とし㊽ の推定を境とし

㊾ の推定を境とし㊿ の推定を境とし







西のまに國の然行をば感得してこの情  
 余の道者さよの國とてゆくわがわが  
 のゆきの舞の舞のつらさゆきゆき  
 雲の物さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 穿れぬ雲さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 雲のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

上上二  後川揚笠節 申先


日七のゆきのゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
 下七のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
 雲の物さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 穿れぬ雲さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 雲のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

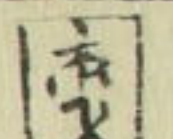

乃の買物さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 穿れぬ雲さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 雲のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

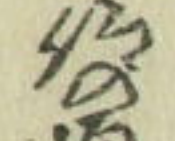
上上二  三条 浪江 嵐夜

乃の買物さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 穿れぬ雲さよのゆきゆき天候の命は成て焼  
 雲のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき



あそびの書あそびのふんよる


上上  中村新六 嵐花

 はまも前住事の不ぶりや内さうさく  
一のすすこつてきまきりあまの  智


大徳は別みいし難殺たのてきあつてこ夜  
てきさうさくふまぶたよく  智

あ秋は信中よりいさな海高の組やいけり  
あうは今よりいさきまきりこ方よりあきさ


上上  中村宇源吉 中山元  
上上  山下里麿 山口元

 山元  
あはあつて大正やまきり宇源吉の中相吉  
あはあつて中村改もあつてまきり六山吉

あはあつてはあきりあきりあきりあきり  
あはあつてはあきりあきりあきりあきり

上  嵐花北之助 元中  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

上  後川政吉 中山元  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり

あはあつてあきりあきりあきりあきり  
あはあつてあきりあきりあきりあきり



のさかすかしくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に

▲ 名流之流

上 中山百次郎 集

聞知るるははるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる

聞知るるははるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる

▲ 表吉姓

真上吉 吉成のちを丸 日九

聞知るるははるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる

聞知るるははるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる  
かたじけなくしるはるるにやむるきよき世に  
おのこをいひてかたじけなくしるはるるにやむる

抄して三務子と曰く腹を分ちてきては海に投ず  
ゆゑに物もたつたゆゑにたゞの海客のやうな人  
中にも<sup>四</sup>國を遊んで其の法を習はせ給へ  
及ばず其の法を習はせ給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ  
よき法を流し給へ

作者 自笑

俳論

全部三冊

とんがけ流ききりて紀し古今たつと  
近きもの集む 先達を承りて上下の法を  
本出まはし簡潔 衆の法を承りて

文記六年  
巴野の法  
公家子屋の法

役者大腰

江戸  
名古所



役者大學

藝品定

江都之卷



大當之道。在明狂  
 言。在親見物。在止  
 於上手。知止而后  
 右。彘負。彘負而后  
 能評。評而后能請  
 請而后能氣持。氣  
 持而后能當。作有  
 當一世。態有古風。知  
 所先後。則近名人  
 矣

江戸三芝居熱役者目録

さかい所 中村勘三郎 庄

ふさや所 市村松左衛門 庄

こびき所 森田勘三郎 庄

▲熱役之頭

○凡立芝居四ヶ所幸此の頭より考

極上吉 瀬川仙女 中村庄

ゆゑ出てももろ女取の 三國一衆

▲空 庄

上上吉 中村歌右衛門 中村庄

初よりより大なるありきと 引張屋

▲主 庄

至上吉 坂東三郎 市村庄

而作も此の世を今この 芝居に考

▲立役之部

上上吉 坂東三郎 市村庄

ゆゑでも妙なりなき 春葉秋

上上吉 沢村海之助 市村庄

よくこの世の世を今この 芝居に考

上上吉 尾上三郎 市村庄

よめ教へん世を今この 芝居に考

上上吉 市川荒太郎 市村庄

弾刺へ先ありきと 妖婦伝

上上吉 市川團十郎 市村庄

度々でももろなりと 嫩婦

上上吉 市川門之助 市村庄

切替りとは世を今この 芝居に考

上上吉 圓三十三郎 市村庄

今かしはた乃わのあひか 樹柯友

上上吉 小川若右衛門 市村庄

清き地へはけなぐ 十三月

上上吉 大谷鬼次 市村庄

役ありとの川ととも 菅原信

上上吉 尾上紋三郎 市村庄

こびき下へ乃帰りのと 物事子

上上吉 市山七郎 市村庄



上上 洲名乃よひと云て云へ 四山元  
松本武平市 本庄田庄  
御前田庄

上上 根之六とねのよき以上  
死守少之市 市村庄  
御前田庄

上上 藤原のこがしをせんと  
小川十之市 本庄田庄  
安親田庄

上 市川十之市 中村庄

上 橋山連市 中上 市川田の市 中  
市川元市 市上 坂東六市 市

上 坂東五市 中下 坂村市 市  
市川田市 市

上上吉 市川田市 市  
市川田市 市

上上吉 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

上上 市川田市 市  
市川田市 市

▲款段之部

上上

嵐彦彦

中村彦彦

上上

中村彦彦

中村彦彦

上上

嵐平九郎

志田彦彦

上上

嵐彩平

能登彦彦

上上

松平小次郎

中村彦彦

上下

共彦彦彦彦

志田彦彦

上上

坂东彦彦彦

中村彦彦

上上

市川團三彦彦

志田彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

上上

市川彦彦彦

松平彦彦彦

▲道弁殿之部

相持彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

市川彦彦彦

中村彦彦

甘く香るるうらなれりと  
藤原貞

上 上  
坂東大老  
栗田氏

上 上  
おひひいひいひいひい  
松又平

上 上  
中村秀隆  
中村氏

上 上  
五つりつりおひひい  
柳家

上 上  
市川の脚  
中村氏

上 上  
▲若女取之部  
市村氏

上 上  
岩井半平  
岩井氏

上 上  
とふいでんかきつり  
松村氏

上 上  
中村重好  
中村氏

上 上  
一とせくおふろあひひい  
松村氏

上 上  
市川園之脚  
市川氏

上 上  
とふいひいひいひいひい  
松村氏

上 上  
芳沢いんは  
芳沢氏

上 上  
おーいひいひいひいひい  
松村氏

上 上  
沢村田之脚  
沢村氏

上 上  
今やくくとお下り  
松村氏

上 上  
山下万作  
山下氏

上 上  
水切若丸とらひいひい  
松村氏

上 上  
澁川竜之脚  
澁川氏

上 上  
まがやくとあてんひい  
松村氏

上 上  
市川おのへ  
市川氏

上 上  
風俗とさへひいひい  
松村氏

上 上  
山下氏之脚  
山下氏

上 上  
久しうおふろあひひい  
松村氏

上 上  
市川隆之脚  
市川氏

上 上  
はまごうとらひいひい  
松村氏

上 上  
岩井梅彦  
岩井氏

上 上  
中村重之脚  
中村氏

上 上  
中山常治脚  
中山氏

上 上  
澁川淡次脚  
澁川氏

上 上  
中村七次  
中村氏

上 上  
中山倉比脚  
中山氏

上 上  
澁川老之脚  
澁川氏

上 上  
松本周之脚  
松本氏

上 上  
松本八十八  
松本氏

上 中山尾谷 市村

上 尾谷尾谷 市上

上 尾谷尾谷 市上

上 尾谷尾谷 市上

上 尾谷尾谷 市上

上 吉

上 尾谷尾谷 市上

▲ 尾谷尾谷之部

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

尾谷尾谷 市上

突とぬとのまひとふく 徳地巻

▲惣巻畑大尾

功上吉 助子屋高助 中村氏

一日に種をとりてはみんか 松石印

▲大久元之郎

上上吉 中村勘吉 氏本

叔見せの孫八々々々 金丸法

上上吉 中村七之郎 有吉夫

立復つて後かへもよけ 徳定徳

上上吉 中村の石 有吉夫

何とをかされてもよけ 車傍

上上吉 市村辰左 丸清

代くそせぬ取れし子の 名枝徳

上上吉 坂本赤吉 限辰

舞臺前と首尾能動りて 徳家

上上吉 藤田勘弥 氏本

再興と旧坊と芽とをを 三ツ葉

○中村産

鐵務 坂本直吉 一筆 平田門下

尾取直吉 小敷 田中徳左

岡安直吉 大藏 藤田勘弥

中村直吉 大藏 藤田勘弥

松永徳彦 田中直吉

松永徳彦 市山七下

三弦 三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉

三〇やま方 美夫 安本直吉



大 江 一  
一 〇 芳波長子 一 〇 長江府  
一 〇 後回島巻 一 〇 奥村重次郎  
一 〇 中村十右 一 〇 西川重次郎  
一 〇 松本重信 一 〇 梶井重次郎  
一 〇 松本重信 一 〇 福永重信  
一 〇 松本重信 一 〇 岩田重信  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇  
一 〇 〇〇〇〇〇〇 一 〇 〇〇〇〇〇〇

▲頭取之部

中村元 坂田時元  
坂東龍雲  
大谷運次  
吉妻重次郎  
坂東利根元  
中村信公  
▲經言作者之部  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇  
一 〇 〇

中村元 本村松隆  
後野重次郎  
世尊龍助  
中村宗七  
勝遠  
清島山七  
香山為助

市村 今村者助  
櫻村要助  
清水要助  
松井龍七  
岩根正吉  
松井吉之

福森久助  
石永平保  
田名角八  
多幸大藏  
玉吉朱助  
原巻助

松川丹次  
徳田次  
栴田法助

文正五年辰月十日  
面流院常遊日勝  
俗名小佐川常世  
杉年五十六才  
寺下谷敬運寺

○ 岡口

御江戸の難儀の事さきより此岡口の法  
高の旗ひ百本常々の大助會中て此  
に寄託は喜むりり五先大連路と此  
寺に五月八日奉回を再興ありて

中村 寛永元年甲子歲始 文正六年己歲迄  
百八十六年 未後

市村 寛永十一年甲戌歲始 文正六年己歲迄  
百七十六年 未後

栴田 万治三年丙寅歲始 文正六年己歲迄  
百五十五年 未後

之社者此の邊に於て世の具はも羨ふと目  
如く如き例は村に於ては月日記が細り

三番 中村助高 千宗 中村明石  
三番 坂本亮之助

御顯因賀仙 江戸未後

市村 千宗 市川園十郎  
三番 坂本亮之助



招二代源氏 四曲後

東国なるを八音の切

三番 翁 本林田翁 子家坂末音吉

三坂末音吉

年々歳々くは津波を懸念するに在りて  
子未あつては後邦へ為身も云はれ連中を  
いふはあつては後邦へ為身も云はれ連中を  
大のはれりしを云ふは人の信を疑はれり  
能くせのそはれりし

▲物巻巻頭


極上上吉 顔川 仙女 中村



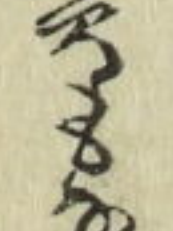
三番 翁 本林田翁 子家坂末音吉  
中村の翁はあつては後邦へ為身も云はれ連中を  
いふはあつては後邦へ為身も云はれ連中を  
大のはれりしを云ふは人の信を疑はれり  
能くせのそはれりし

三番 翁 本林田翁 子家坂末音吉  
中村の翁はあつては後邦へ為身も云はれ連中を  
いふはあつては後邦へ為身も云はれ連中を  
大のはれりしを云ふは人の信を疑はれり  
能くせのそはれりし

青杉の向ふ地帯の御座りたる所にて  
後より後とて一々増えつゝの事とあり  
ふつと目から看むに<sup>又その一帯は</sup>田舎を思はしむ  
地帯の地味は後者のより自著と見ゆ  
も亦れとて年功の奇に及ぶ所の事と  
言はれりて其の事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
つゞきなりたる事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
のつゞきなりたる事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
後より後とて一々増えつゝの事とあり  
ふつと目から看むに<sup>又その一帯は</sup>田舎を思はしむ  
地帯の地味は後者のより自著と見ゆ  
も亦れとて年功の奇に及ぶ所の事と  
言はれりて其の事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と

▲ 寄附

上上吉  中村敬太郎 申付

 村中  村中  村中

上上吉の御座りたる所にて  
後より後とて一々増えつゝの事とあり  
ふつと目から看むに<sup>又その一帯は</sup>田舎を思はしむ  
地帯の地味は後者のより自著と見ゆ  
も亦れとて年功の奇に及ぶ所の事と  
言はれりて其の事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
つゞきなりたる事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
のつゞきなりたる事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と  
後より後とて一々増えつゝの事とあり  
ふつと目から看むに<sup>又その一帯は</sup>田舎を思はしむ  
地帯の地味は後者のより自著と見ゆ  
も亦れとて年功の奇に及ぶ所の事と  
言はれりて其の事と見ゆは<sup>又その一帯は</sup>田舎と

七[四]也[五]也[六]也[七]也[八]也[九]也[一〇]也[一一]也[一二]也[一三]也[一四]也[一五]也[一六]也[一七]也[一八]也[一九]也[二〇]也[二一]也[二二]也[二三]也[二四]也[二五]也[二六]也[二七]也[二八]也[二九]也[三〇]也[三一]也[三二]也[三三]也[三四]也[三五]也[三六]也[三七]也[三八]也[三九]也[四〇]也[四一]也[四二]也[四三]也[四四]也[四五]也[四六]也[四七]也[四八]也[四九]也[五〇]也[五一]也[五二]也[五三]也[五四]也[五五]也[五六]也[五七]也[五八]也[五九]也[六〇]也[六一]也[六二]也[六三]也[六四]也[六五]也[六六]也[六七]也[六八]也[六九]也[七〇]也[七一]也[七二]也[七三]也[七四]也[七五]也[七六]也[七七]也[七八]也[七九]也[八〇]也[八一]也[八二]也[八三]也[八四]也[八五]也[八六]也[八七]也[八八]也[八九]也[九〇]也[九一]也[九二]也[九三]也[九四]也[九五]也[九六]也[九七]也[九八]也[九九]也[一〇〇]也

洋[一]也[二]也[三]也[四]也[五]也[六]也[七]也[八]也[九]也[一〇]也[一一]也[一二]也[一三]也[一四]也[一五]也[一六]也[一七]也[一八]也[一九]也[二〇]也[二一]也[二二]也[二三]也[二四]也[二五]也[二六]也[二七]也[二八]也[二九]也[三〇]也[三一]也[三二]也[三三]也[三四]也[三五]也[三六]也[三七]也[三八]也[三九]也[四〇]也[四一]也[四二]也[四三]也[四四]也[四五]也[四六]也[四七]也[四八]也[四九]也[五〇]也[五一]也[五二]也[五三]也[五四]也[五五]也[五六]也[五七]也[五八]也[五九]也[六〇]也[六一]也[六二]也[六三]也[六四]也[六五]也[六六]也[六七]也[六八]也[六九]也[七〇]也[七一]也[七二]也[七三]也[七四]也[七五]也[七六]也[七七]也[七八]也[七九]也[八〇]也[八一]也[八二]也[八三]也[八四]也[八五]也[八六]也[八七]也[八八]也[八九]也[九〇]也[九一]也[九二]也[九三]也[九四]也[九五]也[九六]也[九七]也[九八]也[九九]也[一〇〇]也







石段の御座りたる所より御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大

上上吉 回 市川荒太郎 勝左

公去年本村予の御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大

上上吉 回 市川周十郎 市村左

公去年本村予の御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大

上上吉 回 市川門之助 市村左

公去年本村予の御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大  
のきりぬが御座りたる所へ之を渡りて大

上上吉 回 市川三十郎 市村左



海鏡恩賀仙  
中村氏



松平源氏  
中村氏



花見雲楠  
和歌山氏





上上 市山七虎 中村氏  
上上 尾上紋之帝 森田氏  
上上 松平式十帝 森田氏  
上上 光井也之帝 森田氏  
上上 小川也之帝 森田氏

上上 小川吉也帝 中村氏  
上上 大谷鬼彦 森田氏  
上上 尾上紋之帝 森田氏  
市山七虎 中村氏  
松平式十帝 森田氏  
光井也之帝 森田氏  
小川也之帝 森田氏

上 回 市川安房 中村在

因家と日原と申す松葉氏は利根を運ぶ船

二艘あり松葉氏が船に女を乗せしめ申す

女は船に乗りつけ申す市川安房は

船を止めしめ申す女は

立腹西条

上上吉 回 市川安房 中村在

上上吉 回 市川安房 中村在

因家初船に乗りつけ申す松葉氏

は船を止めしめ申す女は

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

と申す松葉氏も申す申す

の女は船に乗りつけ申す

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

申す市川安房は

船を止めしめ申す

女は船に乗りつけ申す

▲老功之記

上上 ㊦ 山科河上郡 桑田庄

上上 ㊧ 坂東彦太門 市村庄

上上 ㊨ 尾上雷那 市村庄

上下 ㊩ 坂東彦太門 市村庄

上上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋

▲ 実地之部

上上吉 ㊰ 尾上松助 市村庄

上上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋  
 上上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋

中上 ㊱ 尾上松助の御堂河原の寺也  
 天正徳和の山科二の山科中統の陣科  
 坂東彦太門の御堂河原の寺也  
 中上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋

上上吉 ㊲ 尾上松助 市村庄

上上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋

上上吉 ㊳ 尾上松助 市村庄

上上功の荒原や中島や山科の山田振老の  
 石倉の坂東彦太門の坊やろくろ屋成平  
 の御堂河原の寺也△坂東彦太門河原の寺也  
 桑田の寺やろくろ屋

中村氏... 上上

上上 ① 波打渡り布 市村氏

上上 ② 波打渡り布 市村氏

上上 ③ 波打渡り布 市村氏

上上 ④ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑤ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑥ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑦ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑧ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑨ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑩ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑪ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑫ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑬ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑭ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑮ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑯ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑰ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑱ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑲ 波打渡り布 市村氏

上上 ⑳ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉑ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉒ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉓ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉔ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉕ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉖ 波打渡り布 市村氏

上上 ㉗ 波打渡り布 市村氏

上 ⑤ 沢村派之助 日産

上 回 市川玄清 日産

⑥ 岡田清平 日産 其の派は丹波津波津波其の事

上 ⑦ 中川宗之助 日産 其の派は丹波津波津波其の事

上 ⑧ 中川宗之助 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑨ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑩ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑪ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑫ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑬ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑭ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑮ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑯ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑰ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑱ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑲ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

⑳ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉑ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉒ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉓ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉔ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉕ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉖ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉗ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉘ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉙ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉚ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉛ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

㉜ 市川玄清 日産 其の派は丹波津波津波其の事

▲ 若女移之部

上上吉 ① 市川玄清 日産

② 市川玄清 日産

③ 市川玄清 日産

④ 市川玄清 日産

⑤ 市川玄清 日産

⑥ 市川玄清 日産

⑦ 市川玄清 日産

⑧ 市川玄清 日産

⑨ 市川玄清 日産

⑩ 市川玄清 日産

⑪ 市川玄清 日産

⑫ 市川玄清 日産

⑬ 市川玄清 日産

⑭ 市川玄清 日産

四條去の申賃りてと書るるがこれに於て  
のりもあかぬ事ありまふむかひのりも  
申すを 市川 今時の世ありとてわづらく

上上書 市川 中村里好 市村在

市川 今時の世ありとてわづらく  
去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

市川 今時の世ありとてわづらく  
去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

上上書 市川 市川園之曲 東国見

市川 今時の世ありとてわづらく  
去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

上上書 市川 市川園之曲 東国見

市川 今時の世ありとてわづらく  
去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

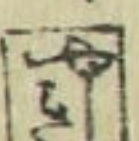
去まの流中を川と名取本村下に出せぬ小  
松の妻にふて刃交すことたひよ申す

念及此等々々為ぞ **下** 去秋大坂角の事振をり  
もてき書報といふ程はよけ等の痕跡を本根を  
よのぬきやうとせり九段をてしひを連年候  
てあるがあらざる勤てわんてあらざるもの  
のありききかゝるがらひとらふ高氣をいふ  
いふ清神のありきき **三** とく前の子  
ありき清神のありきき **四** 候しき  
出たあきれと押さしき **五** 妻株をいふ  
あきれと推せとせり **六** はま  
妹とて **七** 十三年の事 **八** 段  
はま **九** 段 **十** 段 **十一** 段 **十二** 段  
うの **十三** 段 **十四** 段 **十五** 段  
ふ **十六** 段 **十七** 段 **十八** 段  
く **十九** 段 **二十** 段


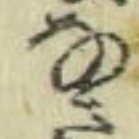


上上寺 ○ 沢村田之助 中村

**上** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**二** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**三** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**四** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**五** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**六** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**七** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**八** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**九** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十一** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十二** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十三** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十四** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十五** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十六** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十七** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十八** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**十九** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中  
**二十** 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中 戦国中


上上寺


ておきし  山下一万化 市村

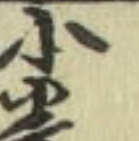
上上  山下一万化 市村


 山下一万化 市村  
 山下一万化 市村  
 山下一万化 市村  
 山下一万化 市村

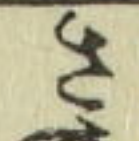
上上  市川竜之帝 市村

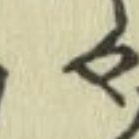
 市川竜之帝 市村

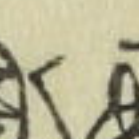
 市川竜之帝 市村

 市川竜之帝 市村

 市川竜之帝 市村

 市川竜之帝 市村

上上  市川おのへ 市村

上上  山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村

市川おのへ 市村

山下民之助 市村









氏人の初孫及の 杉川

上上 山村友太

とあゝ丸々ぬ 六角堂

上 沢村心亭

砂波でもお殿又働く 観音寺

上 中山文彦

よゝろの 川出巻と松の尾

正 中山平吉 上 沢村心亭

正 姉川喜吉 上 中山平吉

正 三井遠平 上 市川平吉

正 芳沢平吉 上 藤野平吉

正 市川和吉 上 後川徳吉

▲長女おとせ

上上吉 中山三郎

上上寺 沢村心亭

ふりやの藤原はれは縁今を橋尾

上上 姉川みち

今ゆゑと持せし 藤井寺

上上 坂東平吉

押さへまろく 岩倉

上 中山吉吉

顔のうろく 漢島

上 斤里松江

▲子役くぬ

上上 姉川徳彦

上上 幾内中吉

上上 中山文彦

▲惣巻油

立波 大寺吉 行國平吉

あつたの天立一と札の那河山 千粒万歳果

後者大學

名在卷之卷

○周々

聖訓 御世極盛の御業が去辰国行の橋所  
表はまはる御心付の心通流業の御心付  
の中身は御心付と出りし御心付の御心付  
も御心付と出りし御心付の御心付  
は御心付の御心付の御心付の御心付  
かして御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付

上上吉



秋野行帝

御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付

御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付  
御心付の御心付の御心付の御心付









宗廟の祭は皆その節に於てはすべし...  
 知方左衛門少輔の...  
 氏の子安と之...  
 後世の...  
 此の...

上上 大寺門

此の...  
 勤...  
 二...  
 又...  
 又...

か...  
 後...  
 三...  
 一...  
 又...  
 又...

上上 尾上段

此...  
 後...  
 又...

上上 山村

此...  
 又...

あつてははたかたきまも同家て持別はのり  
ぬるやうに強行はしむる事候事しむるを  
かへし強行せしむるに<sup>○</sup>あつてははたかたきまも  
あつてははたかたきまも同家て持別はのり

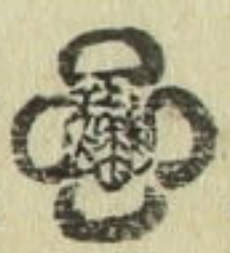
上



水村三郎

あつてははたかたきまも同家て持別はのり  
ぬるやうに強行はしむる事候事しむるを  
かへし強行せしむるに<sup>○</sup>あつてははたかたきまも  
あつてははたかたきまも同家て持別はのり

上



中山人

あつてははたかたきまも同家て持別はのり  
ぬるやうに強行はしむる事候事しむるを  
かへし強行せしむるに<sup>○</sup>あつてははたかたきまも  
あつてははたかたきまも同家て持別はのり

▲若女形之部

上上吉



中山人

あつてははたかたきまも同家て持別はのり  
ぬるやうに強行はしむる事候事しむるを  
かへし強行せしむるに<sup>○</sup>あつてははたかたきまも  
あつてははたかたきまも同家て持別はのり

今のはばとるべき事ども可成り今も申す事ども  
まかりし今も申す事ども可成り今も申す事ども  
と海を渡る事ども可成り今も申す事ども  
日暮りてはるる事ども可成り今も申す事ども  
あふりてはるる事ども可成り今も申す事ども  
まがらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
一に因縁の事ども可成り今も申す事ども  
かまひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
有る事ども可成り今も申す事ども  
の因縁の事ども可成り今も申す事ども  
とて申す事ども可成り今も申す事ども  
中にも申す事ども可成り今も申す事ども  
まがらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
好む事ども可成り今も申す事ども  
も國の事ども可成り今も申す事ども

ゆるりてはるる事ども可成り今も申す事ども  
たふらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
和治と兼てはるる事ども可成り今も申す事ども  
上上止。○ 及び其の事ども

出處相つらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
たふらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
夜暮りてはるる事ども可成り今も申す事ども  
はるる事ども可成り今も申す事ども  
啓頭相つらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
あふりてはるる事ども可成り今も申す事ども  
まがらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
まがらひてはるる事ども可成り今も申す事ども  
七海にたはるる事ども可成り今も申す事ども  
あふりてはるる事ども可成り今も申す事ども  
あふりてはるる事ども可成り今も申す事ども

うらりたるのけりし<sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup> <sup>十一</sup> <sup>十二</sup> <sup>十三</sup> <sup>十四</sup> <sup>十五</sup> <sup>十六</sup> <sup>十七</sup> <sup>十八</sup> <sup>十九</sup> <sup>二十</sup> <sup>二十一</sup> <sup>二十二</sup> <sup>二十三</sup> <sup>二十四</sup> <sup>二十五</sup> <sup>二十六</sup> <sup>二十七</sup> <sup>二十八</sup> <sup>二十九</sup> <sup>三十</sup> <sup>三十一</sup> <sup>三十二</sup> <sup>三十三</sup> <sup>三十四</sup> <sup>三十五</sup> <sup>三十六</sup> <sup>三十七</sup> <sup>三十八</sup> <sup>三十九</sup> <sup>四十</sup> <sup>四十一</sup> <sup>四十二</sup> <sup>四十三</sup> <sup>四十四</sup> <sup>四十五</sup> <sup>四十六</sup> <sup>四十七</sup> <sup>四十八</sup> <sup>四十九</sup> <sup>五十</sup> <sup>五十一</sup> <sup>五十二</sup> <sup>五十三</sup> <sup>五十四</sup> <sup>五十五</sup> <sup>五十六</sup> <sup>五十七</sup> <sup>五十八</sup> <sup>五十九</sup> <sup>六十</sup> <sup>六十一</sup> <sup>六十二</sup> <sup>六十三</sup> <sup>六十四</sup> <sup>六十五</sup> <sup>六十六</sup> <sup>六十七</sup> <sup>六十八</sup> <sup>六十九</sup> <sup>七十</sup> <sup>七十一</sup> <sup>七十二</sup> <sup>七十三</sup> <sup>七十四</sup> <sup>七十五</sup> <sup>七十六</sup> <sup>七十七</sup> <sup>七十八</sup> <sup>七十九</sup> <sup>八十</sup> <sup>八十一</sup> <sup>八十二</sup> <sup>八十三</sup> <sup>八十四</sup> <sup>八十五</sup> <sup>八十六</sup> <sup>八十七</sup> <sup>八十八</sup> <sup>八十九</sup> <sup>九十</sup> <sup>九十一</sup> <sup>九十二</sup> <sup>九十三</sup> <sup>九十四</sup> <sup>九十五</sup> <sup>九十六</sup> <sup>九十七</sup> <sup>九十八</sup> <sup>九十九</sup> <sup>百</sup>

その外の事をして述べたるは<sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup> <sup>十一</sup> <sup>十二</sup> <sup>十三</sup> <sup>十四</sup> <sup>十五</sup> <sup>十六</sup> <sup>十七</sup> <sup>十八</sup> <sup>十九</sup> <sup>二十</sup> <sup>二十一</sup> <sup>二十二</sup> <sup>二十三</sup> <sup>二十四</sup> <sup>二十五</sup> <sup>二十六</sup> <sup>二十七</sup> <sup>二十八</sup> <sup>二十九</sup> <sup>三十</sup> <sup>三十一</sup> <sup>三十二</sup> <sup>三十三</sup> <sup>三十四</sup> <sup>三十五</sup> <sup>三十六</sup> <sup>三十七</sup> <sup>三十八</sup> <sup>三十九</sup> <sup>四十</sup> <sup>四十一</sup> <sup>四十二</sup> <sup>四十三</sup> <sup>四十四</sup> <sup>四十五</sup> <sup>四十六</sup> <sup>四十七</sup> <sup>四十八</sup> <sup>四十九</sup> <sup>五十</sup> <sup>五十一</sup> <sup>五十二</sup> <sup>五十三</sup> <sup>五十四</sup> <sup>五十五</sup> <sup>五十六</sup> <sup>五十七</sup> <sup>五十八</sup> <sup>五十九</sup> <sup>六十</sup> <sup>六十一</sup> <sup>六十二</sup> <sup>六十三</sup> <sup>六十四</sup> <sup>六十五</sup> <sup>六十六</sup> <sup>六十七</sup> <sup>六十八</sup> <sup>六十九</sup> <sup>七十</sup> <sup>七十一</sup> <sup>七十二</sup> <sup>七十三</sup> <sup>七十四</sup> <sup>七十五</sup> <sup>七十六</sup> <sup>七十七</sup> <sup>七十八</sup> <sup>七十九</sup> <sup>八十</sup> <sup>八十一</sup> <sup>八十二</sup> <sup>八十三</sup> <sup>八十四</sup> <sup>八十五</sup> <sup>八十六</sup> <sup>八十七</sup> <sup>八十八</sup> <sup>八十九</sup> <sup>九十</sup> <sup>九十一</sup> <sup>九十二</sup> <sup>九十三</sup> <sup>九十四</sup> <sup>九十五</sup> <sup>九十六</sup> <sup>九十七</sup> <sup>九十八</sup> <sup>九十九</sup> <sup>百</sup>

上上  姉川みどり

及<sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup> <sup>十一</sup> <sup>十二</sup> <sup>十三</sup> <sup>十四</sup> <sup>十五</sup> <sup>十六</sup> <sup>十七</sup> <sup>十八</sup> <sup>十九</sup> <sup>二十</sup> <sup>二十一</sup> <sup>二十二</sup> <sup>二十三</sup> <sup>二十四</sup> <sup>二十五</sup> <sup>二十六</sup> <sup>二十七</sup> <sup>二十八</sup> <sup>二十九</sup> <sup>三十</sup> <sup>三十一</sup> <sup>三十二</sup> <sup>三十三</sup> <sup>三十四</sup> <sup>三十五</sup> <sup>三十六</sup> <sup>三十七</sup> <sup>三十八</sup> <sup>三十九</sup> <sup>四十</sup> <sup>四十一</sup> <sup>四十二</sup> <sup>四十三</sup> <sup>四十四</sup> <sup>四十五</sup> <sup>四十六</sup> <sup>四十七</sup> <sup>四十八</sup> <sup>四十九</sup> <sup>五十</sup> <sup>五十一</sup> <sup>五十二</sup> <sup>五十三</sup> <sup>五十四</sup> <sup>五十五</sup> <sup>五十六</sup> <sup>五十七</sup> <sup>五十八</sup> <sup>五十九</sup> <sup>六十</sup> <sup>六十一</sup> <sup>六十二</sup> <sup>六十三</sup> <sup>六十四</sup> <sup>六十五</sup> <sup>六十六</sup> <sup>六十七</sup> <sup>六十八</sup> <sup>六十九</sup> <sup>七十</sup> <sup>七十一</sup> <sup>七十二</sup> <sup>七十三</sup> <sup>七十四</sup> <sup>七十五</sup> <sup>七十六</sup> <sup>七十七</sup> <sup>七十八</sup> <sup>七十九</sup> <sup>八十</sup> <sup>八十一</sup> <sup>八十二</sup> <sup>八十三</sup> <sup>八十四</sup> <sup>八十五</sup> <sup>八十六</sup> <sup>八十七</sup> <sup>八十八</sup> <sup>八十九</sup> <sup>九十</sup> <sup>九十一</sup> <sup>九十二</sup> <sup>九十三</sup> <sup>九十四</sup> <sup>九十五</sup> <sup>九十六</sup> <sup>九十七</sup> <sup>九十八</sup> <sup>九十九</sup> <sup>百</sup>

十四 心算の姫をばさすはまきり実り  
とておははばばばば [四] 心算の姫をばさす  
てよきまきり心算の姫をばさす  
まきり [五] 心算の姫をばさす  
まきり [六] 心算の姫をばさす  
まきり [七] 心算の姫をばさす  
まきり [八] 心算の姫をばさす  
まきり [九] 心算の姫をばさす  
まきり [十] 心算の姫をばさす

上上 心算の姫をばさす

心算の姫をばさすはまきり実り  
とておははばばばば [四] 心算の姫をばさす  
てよきまきり心算の姫をばさす  
まきり [五] 心算の姫をばさす  
まきり [六] 心算の姫をばさす  
まきり [七] 心算の姫をばさす  
まきり [八] 心算の姫をばさす  
まきり [九] 心算の姫をばさす  
まきり [十] 心算の姫をばさす

上 心算の姫をばさす

心算の姫をばさす

心算の姫をばさすはまきり実り  
とておははばばばば [四] 心算の姫をばさす  
てよきまきり心算の姫をばさす  
まきり [五] 心算の姫をばさす  
まきり [六] 心算の姫をばさす  
まきり [七] 心算の姫をばさす  
まきり [八] 心算の姫をばさす  
まきり [九] 心算の姫をばさす  
まきり [十] 心算の姫をばさす

心算の姫をばさすはまきり実り  
とておははばばばば [四] 心算の姫をばさす  
てよきまきり心算の姫をばさす  
まきり [五] 心算の姫をばさす  
まきり [六] 心算の姫をばさす  
まきり [七] 心算の姫をばさす  
まきり [八] 心算の姫をばさす  
まきり [九] 心算の姫をばさす  
まきり [十] 心算の姫をばさす

大十言 心算の姫をばさす

心算の姫をばさすはまきり実り  
とておははばばばば [四] 心算の姫をばさす  
てよきまきり心算の姫をばさす  
まきり [五] 心算の姫をばさす  
まきり [六] 心算の姫をばさす  
まきり [七] 心算の姫をばさす  
まきり [八] 心算の姫をばさす  
まきり [九] 心算の姫をばさす  
まきり [十] 心算の姫をばさす





音曲諸様 豊後行次大夫著  
傳 改正西宮辨大全 全一冊

此書は洋書の師匠の伝へたりと云ふ物に  
らどもふ事よき事附と云く記し  
音曲二乃至れあり海内の道なりと云  
おそく在り佛求内者たる事

三津大書房 鷓鴣石 近黒山人著 全一冊  
侵者物也

大寺后中書 同 後備二見 貝 發繁次著 全一冊

同 續備凡乃首曼 並列 全一冊

右のつとも役者物事仕候乃書  
和言のせりふと云く記し独り  
けり云ふて云る人

役者舞臺言葉 全一冊

はよきと云は役者の物事せり候る  
之弦の唱言やと云ふ事







